

(様式2) 平成29年度【自己評価報告書】

学校番号	学校(園)名
30	川崎市立宮崎中学校
校長名	田中 真理子

- (1) 書き方については、平成19年度「学校評価報告書」P17・18を参照ください。
 (2) 評価項目設定については、各学校の実情に応じて取捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
 (3) 学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
 (4) 「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
・理想を高め、自主自律ある人間の育成 ・勤労を尊び、実践力ある人間の育成 ・豊かな情操を身につけた人間の育成 ・互いに人権を尊重し合える民主的人間の育成 ・国際的な視野に立ち互いの文化を尊重できる人間の育成	(1)自ら学び、考える生徒の育成 (2)開かれた学校づくり (3)教職員の資質向上	1. 授業力の向上 2. 心を育てる教育の実践 3. 安全危機管理意識の向上

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 わかる授業 生徒が達成感を持てる 授業展開の実践	生徒に「確かな学力」を身につけさせるため、単元のねらいを明確に伝え、「わかる・できる」達成感を味わわせる	○授業方法の工夫と改善への継続的な取り組み ●教科会、研究授業、情報交換等の励行 ○道徳・特別活動・総合の授業について全職員での取り組み ○学習環境への意識の向上 ●板書や発問を意図的に行い生徒の学習活動を支援の工夫	・板書・発問の工夫と教材開発 ・学習環境への心配り(きめ細かな目配り) ・視聴覚教材の積極的運用 ・発言のルール・マナー等の確立 ・言語環境を整え、言語力を育てる
2 学習環境の整備	授業者・担任として、教室の美化や掲示物等を配り、「学習の雰囲気」作りを行う。家庭学習の習慣の呼びかけ(学習の定着)	○学習指導要領に基づく授業展開 ○学習効果を高める環境づくり(教材・教具・掲示物) ●評価についての研修を深める必要性	⇒①授業力の向上 ～ 言語環境の整備 自分の考えを正しい言葉で伝える ～
3 各教科で身につける 国語力と言語環境の整備	実生活の中で生かせる言語力の向上 「話す」「聞く」「書く」の学習場面を意図的に作り指導する 言語環境の整備に努める 正しい言葉、美しい言葉の使用	○生徒への言葉かけ・話し方の研究 ●正しい言葉づかいの指導 ●授業の基本的ルール・発言のルール・マナーの指導	
4 授業評価による授業改善	生徒一人一人をよく観察し、授業への取り組み、理解の状況を把握し、次の授業へ活かすように努める	○教員同士の的確な情報交換の実践 ○福祉体験・職場体験、保育実習等体験活動を実施 ●視聴覚教材・教具の効果的な活用	
5 道徳授業を核とした 心の教育の推進	話し合い活動を充実させ、自他への思いやり、集団の一員としての自覚を育てる 感謝の気持ちを大切に作る雰囲気作り	○共生・共育と運動させた全職員での取り組み ○あらゆる教科、活動場面を通して心を育てる教育の実践 ○人に対する心配りへの気づき・「聴く」ことの指導	
6 挨拶や身だしなみ等 基本的な生活習慣の確立	日常生活において、挨拶やマナーを大切にし、コミュニケーション能力の向上、人格形成(大人になる、人として)においても重要であることを伝えて育てる 教師自身の身だしなみに気を配る	○あいさつ、ありがとうの言葉かけ ○教員同士の指導事項の確認 ○時間を守る意識の向上 ●服装や頭髪への気遣い	・「あいさつ」「ありがとう」「はい」の言葉かけ ・全教育場面を通じ自尊感情・他者理解・自己肯定感を育てる ・「感動」「感謝」の言葉を分かち合い心を育てる教育を実践する ・TPOを意識した行動と言葉遣いを率先して行う
7 自己肯定感の育成と他者理解の心の育成	生徒・教師・保護者・地域の連携を大切に、人権感覚(他者理解)を育て、いじめや生徒指導の早期発見・対応・解決に努める チームとしての対応を心がける 体験・校外学習の取り組み	○教科学習・部活動等を通して「賞賛と激励」の励行 ○アンケートや教育相談の実施 ○「人の気持ち・立場」を考える場面の設定(福祉体験・職場体験・校外学習)	⇒②心を育てる教育の実践 ～ 自他への思いやりの心を育てる ～
8 健康・安全教育の推進 と危機管理意識の向上	常に安心安全な学校・学級作りに気を配り、点検整備を進んで行う 生徒の危険回避能力を育てる 「命の尊さ」を継続的に指導する	○生徒の事故、けが等への対応は迅速で、的確な対応 ○学校生活のあらゆる場面での安全配慮への意識の向上と実践	・環境や施設への安全配慮と点検 ・掲示物や学習成果物の展示を積極的に行う ・積極的な情報発信と収集
9 家庭地域との連携と 情報発信と収集	学校や学級の考え方や、学校行事・生徒の活躍を保護者や地域に積極的に広げ、理解を図る 保護者や地域とのふれあいを活かす	○PTA行事、おやじの会、宮中フェスタ等への多数の職員への参加 ○学校通信、学年通信、学級通信、部活通信等積極的に発行 ●より深い保護者の意向、考えの聴取の必要性	・安心安全な学校作り、防災教育の徹底 ⇒③安全危機管理意識の向上
10 その他(教員の資質向上・特別支援教育の取組み)	教員としての資質向上をめざし、研修、教材開発等に積極的に取り組む 特別支援教育への意識を高める 教員同士の連携・情報交換を密にする。	○研修会、授業研究会への取り組み ○教員同士の情報交換、支援体制 ●特別支援教育の理解と実践 ●不登校生徒への支援	・話し合いを土台としたモチベーションを高める組織の構築と運営 ・資質向上を目指した研修の企画と実践 ・明るく温かい職場づくり(チーム支援体制)

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
学校を訪問すると教員や多くの生徒からあいさつがあり、うれしく思う。学校が依然より落ち着いてきたためか、情報量が少なくなった。地域としても見守り、応援したい。また、不登校生徒についても、地域で見守りながら、情報共有もしていきたい。	71年目はチャレンジ新たな取組を意識し、伝統校としての誇りをもって学校全体が落ち着いた日々を送ることができた。今年度も生徒一人ひとりを大切に、寄り添いながら①授業力の向上②心を育てる教育の実践③安心安全な学校づくりを3本柱に、教職員一丸となって取り組んでいく。日々の活動を振り返り、改善を意識しながら、よりよい学校運営を行う。自然災害に備え、防災意識を高め「生きる力」を培う。特別な支援を要する生徒や不登校生徒への対応をチームで支援していく。